

「Soccer For Life」

サッカーを愛する皆様こんにちは、今月は私たち Wynrs NZ が行っている活動のひとつ「Soccer For Life」についてご紹介したいと思います。

私たち日本人にとって、特に日本に住んでいるとほとんど実感することがないことがあります。それは、「貧富の差」です。

ここニュージーランドでは、この「貧富の差」は社会の中で歴然としてあります。私の経験上、「貧富の差」がない国を探す方が難しいと思います。特にニュージーランドは移民の国なので、様々な人種文化が混ざり合って社会が成り立っています。このような社会を英語では「マルチ・カルチャー・ソサイエティー」といいますが、ニュージーランドの中でも私が今住んでいる、オークランドはまさに絵に描いたような、「マルチ・カルチャー・ソサイエティー」と言えると思います。一般的に「マルチ・カルチャー・ソサイエティー」の中では「貧富の差」が生まれやすいといわれています。その理由は様々だと思えます。それは教育問題（=いい教育を受ければいい職につける）であったり、文化の違い（=働くことに対するメンタリティー）であったり、また社会の暗黙の了解ではありますが、「差別」ということもあるでしょう。

「貧富の差」がある国では、自然と人々の住む地域が分かれています。オークランドにはオタラ地区というところがあり、この地域には先住民のマオリ民族の人達を中心に、こちらでは「アイランダー」(フィジー、サモア、トンガといった島からの移民)と呼ばれている人達が多く住んでいる貧しい地域があります。

このオタラ地区の小学校に毎週1回、Wynrsのコーチが出かけて行き、サッカーを通じて子供たちにライフ・スキルを教えるプログラム「Soccer For Life」という活動を私たちは行っています。

このプログラムは、2002年に現ブラジル代表監督、ドゥンガ氏をニュージーランドに迎えてスタートしました。ドゥンガ氏はルーファ

ー氏の友人（お互いブンデスリーガとJリーグでプレー）と言うことだけではなく、彼自身の故郷ブラジルのポルトアレグレに同じようなプログラムを持っていることから、ルーファ氏に共感してわざわざブラジルから来てくれたのです。



オタラの子供たちは本当に元気がよく、面白い子供たちばかりなので想像しにくいのですが、彼らの家庭環境は、ほとんどの子供たちが片親もしくは両親とも蒸発してどこにいるわからないとか、親がいたとしてもアルコールやドラッグ中毒だったり、父親が家族に

暴力を振るったりと日本人には想像しにくい環境で実際に育っている子供たちばかりです。こういった家庭環境の子供たちには親ではない誰かが、人生の基本的なマナーや人との接し方など教えてあげる必要があります。「Soccer For Life」プログラムはそんな子供たちに、サッカーの楽しさを伝えることとともに、人として生きる力「ライフ・スキル」を教えるためのプログラムです。

「Soccer For Life」プログラムは8つの基本スローガンから成り立っています。私たち、Wynrs NZのホームページでも紹介していますが、参考までにご紹介しておきます。

#1 **Aspire** - 簡単に言うと、夢を持つこと。

#2 **T.E.A.M** - *Together Everyone Achieve More* - 物事を成し遂げるには、みんなで助け合うことが必要。

#3 **Self-Control** - 何が正しいかを見極め、間違ったことしない、間違った道に進まない自分を自制する努力。

#4 **Determination** - 物事に一生懸命取り組む姿勢。

#5 **Patience** - 我慢強くあること。

#6 **Ability** - 物事を達成するには、「聞く」「学ぶ」「鍛錬」「応用」の能力が必要。

#7 **Gratitude** - 感謝の気持ち。

#8 **Respect** - 人、社会のルールに対して尊敬の念を持つ気持ち。



日本は、世界でも文化、経済的にも成熟した社会で、しかも単一民族国家であるため、貧富の差や差別が社会の中で表面化することはあまりありません。最近日本でもさまざまな問題があるようですが、外から見ればまだまだそう見えます。私自身、この国に住んでみてこのプログラムに携わるまで、こういう社会が世界の中では普通に存在していることは想像することは出来ましたが、本当に理解をすることはなかったと思います。しかし今では彼らの環境をきちんと理解をした上で、少しでも彼らの人生の手助けになればいい

いなと思っています。

私たち Wynrs のコーチは週交代でオタラ地区に行っているのですが、他のコーチがある日プログラムから帰ってきて、「今日は Miya コーチじゃなのー！」とか「Miya コーチはつぎいつくるのー！」って子供たちが言っていたよ、なんて話を聞くととてもうれしくなります。